

産業厚生常任委員会資料

平成26年12月3日

地域整備部

地域振興課

目 次

○加東市地域経済活性化基本計画について

1. 加東市地域経済活性化実施計画実践状況報告P 1～14
(平成 2 6 年度上半期)

○国道 175・372 号交差部周辺活性化基本計画について

1. 策定作業の経過・計画策定の視点等P15～16
2. 基本計画の概要（案）P17～31

加東市地域經濟活性化實施計畫 平成 26 年度 上半期實踐狀況報告書

平成 26 年 10 月

地域整備部 地域振興課

1. はじめに

平成 23 年度に策定した「加東市地域経済活性化基本計画」に基づき、平成 24 年度は第 1 ステップの実施計画・実践を行いました。平成 25、26 年度は第 2 ステップの実施計画・実践を行っています。

本報告書は、平成 26 年度・上期（第 2 四半期）を終えた時点での進捗についてまとめたものです。

2. 第 2 ステップ実施項目と層別 資料 1

第 2 ステップを推進するに当たり、表 1 に示すマトリクスにて実施内容を層別しました。（平成 25 年度と同様）

層別の要因は以下の 2 点としました。

- ・横の要素＝実施内容の規模での分類：小規模・大規模
- ・縦の要素＝対象期間での分類：短期・長期

表 1. 実施内容の層別マトリクス

	小規模	大規模
	A1・A2	B1・B2
短期：主に第2ステップ*	A1・B1：平成25年度実践項目	
	A2・B2：平成26年度実践項目	
長期：主に第3ステップ*	C	D
	C、D：基本計画の策定と実施・実践の判断を第2ステップで行う	

資料 1 に実施項目の層別結果を示します。

層別の結果、A1・B1 は主に平成 25 年度実践項目として推進しました。A2・B2 は平成 26 年度実践項目と位置づけて推進しています。

3. 第 2 ステップ効果目標値 資料 2

第 2 ステップを推進することによる効果と目標値を資料 2に取りまとめました。

効果を表すことのできる指標（経済指標・雇用指標・個別指標）と、その目標値を想定しました。四半期ごとに効果目標値の検証を実施し、年度末（第 2 ステップ終了時）に確定させます。

4. 加東市地域経済活性化実施計画 平成 26 年度上半期実践状況報告書 資料 3

注）本報告書には平成 26 年 10 月度までの進捗報告を記載しています。

(1) 進捗報告書での表現

- ・実施計画・実践内容の役割分担を次の色分けで示しています。

グレー色の塗りつぶし：市が中心となつて行う事業

ブルー色の塗りつぶし：商工会が中心となつて行う事業

ピンク色の塗りつぶし：共同で行う事業

- ・各実施内容の進捗状況を次の色分けで示しています。

赤文字：平成 26 年 9 月度までに進捗実績のある内容

黒文字：平成 26 年 9 月度までに進捗実績のない内容

(2) 重点フォロー項目の決定

実施計画・実践内容において、優先的に推進すべき下記の 11 項目を重点フォロー項目として設定しました。(NO. は、実施計画内容を示す番号)

- ・ NO. 6 : ◆経営革新プログラムの実施
◆創業支援（第二創業）の実施
- ・ NO. 29 : ◆新・道の駅構想の具現化
- ・ NO. 32 : ◆学生チャレンジショップの開店
- ・ NO. 47 : ◆滝野温泉ぽかぽ活性化プロジェクト～経営計画実行～
- ・ NO. 54 : ◆やしろ鴨川の郷経営改善
- ・ NO. 55 : ◆観光協会の自立支援
- ・ NO. 56 : ◆就労支援室の強化
◆景況調査の実施
- ・ NO. 60 : ◆インターンシップ制度の継続（2 年目）
- ・ NO. 61 : ◆人口 4 万人維持策の検討

※報告書の実施計画・実践内容の欄に「重点フォロー項目」と記載しています

5. 上期（第 1・2 四半期）のトピックス

上期（第 1・2 四半期）を終えるに当たり、特に成果が顕在化した項目について下記にトピックスとして紹介します。

◆経営革新プログラムの実施

【狙い】

工業のさらなる発展を支援する（加東市地域経済活性化基本計画の基本方針：以降基本方針という）ための一つの施策として、市内企業（主として工業・商業分野の中小企業を対象）を支援していきます。市内企業支援には、企業の経営を革新するとともに創業を支援することが重要となります。

【経緯】

平成 24 年度は、28 社が「経営革新」承認支援プログラムに参加され、19 社が承認を受けています。平成 25 年度は、23 社が「経営革新」承認支援プログラムに参加され、12 社が承認を受けています。今年度は 11 社が「経営革新」承認支援プログラムに参加され、現在 4 社が承認を受けています。「経営革新」への取り組みを通じ、自社経営の見直し、経営者の意識改革につながっています。

【上期成果】

経営革新計画の承認を契機とし、新規サービス、新商品開発のために「ものづくり・商業・サービス革新事業（ものづくり補助金）」にも申請し、経営計画策定による効果があることから採択を受け、大規模機械や最先端精密機器の導入を行い、高度化・新商品開発を行う企業が現れています。また逆に、「ものづくり補助金」の申請を足掛かりに、経営革新計画の取得に取り組まれる企業もあります。

販路開拓、企業 P R の為「小規模事業者持続化補助金」の申請を契機にして、経営革新計画承認に向けて取り組まれている事業者も現れています。

商工会青年部員の経営革新計画への取り組みを通じ、若手経営者としての自覚、今後の加東市商工業の中核を担うものとしての責任が芽生え、その実行において、自社企業の成長と地域活性化への取り組みの一層の推進又他の部員への意識改革にも繋がっています。

【下期展望】

経営革新承認に向けた支援や承認事業所へのフォローを推進していきます。

◆新・道の駅構想の具現化

【狙い】

商業の衰退に歯止めをかける（基本方針）ための一つの施策として、市内購買力の向上を図らねばなりません。現在は、市内の購買力が市外的大型商業施設に奪われている傾向が顕在化しており、市内に新たな魅力ある商業ゾーンを構築する必要性が高まっています。

【経緯】

加東市は地勢的に自動車移動に対して大きな優位性を持っています。国道 175・372 号が市の西部で交差しており、また、中国自動車道のインターチェンジを 2 ヶ所有しています。移動の目安として 1 時間以内を集客や調達の対象範囲に設定すると、北播磨地域が対象範囲となり、かつ、高速道路を利用すれば北は日本海（舞鶴）、南は瀬戸内海（淡路島）、東は大阪・京都、西は岡山までが対象範囲となります。したがって、国道 175・372 号交差部周辺が交通の要衝として、需要と供給の結節点となりえる重要な地点であることが認識できます。

【上期成果】

国道 175・372 号交差部周辺活性化基本計画を策定すべく、平成 25 年 12 月 25 日に業務委託計画を締結（㈱地域計画建築研究所：平成 26 年 6 月基本計画策定）しました。今年度は、検討内容が想定以上に多岐にわたることが顕在化したため、契約期間の変更

(平成 26 年 12 月へ延長) 契約を締結しました。

計画の策定にあたり、市民アンケート（平成 26 年 3 月 28 日から 4 月 15 日）、農家アンケート（平成 26 年 4 月 4 日から 4 月 20 日）および WEB アンケート（平成 26 年 5 月 27 日から 6 月 3 日）を実施し、市民の意向を把握しました。

また、国土交通省兵庫国道事務所との道の駅設置協議、イオングループとの Bio 南側活性化策の協議を実施しました。

【下期展望】

上期に商業者等へのヒアリング調査の準備を行い、下期にヒアリング調査を実施し、基本計画へ反映させます。

◆滝野温泉ぽかぽ活性化プロジェクト～経営計画実行～

【狙い】

商業の衰退に歯止めをかける（基本方針）ための一つの施策として、観光に関わる事業を商業分野の観光業として位置づけ、日帰りリピート客の獲得を目指し、滝野温泉ぽかぽを近隣観光地（闘竜灘、光明寺）および都市型公園（播磨中央公園）と連携させて集客増を検討します。

【経緯】

平成 25 年度、滝野温泉ぽかぽ活性化プロジェクトを実施し、「滝野温泉ぽかぽ活性化基本計画」を策定しました。内容は「活性化基本計画」と「経営計画」を立案し、本年度は「経営計画」を実行しています。

立案された「滝野温泉ぽかぽ活性化基本計画」の中の、5 年計画で入込客数 18 万人、年間売上、9,000 万円を目標に、持続的に経営努力を続けています。

【上期成果】

上期は、平成 25 年度から実施した営業日数や営業時間を増やす工夫など、収益向上に努め、入込客数が 176,621 人で、対前年度比 37,204 人増、売上総額が 8,742 万円となり、成果が上がったことに鑑み、5 年後に入込客数 216,000 人、売上 1 億円を目標とするよう、目標数値を上方修正しました。

また、経営計画を改善するため、3 チーム編成（商品計画支援、組織活性化支援、企業会計導入支援）で並行して進めています。

商品計画支援チームは、「売店の現状」と「利用者調査」から販売商品の見直しを図り、売れ筋商品の厳選がなされており、カテゴリ別にレイアウトするなど商品陳列の具体的な検討がなされています。

組織活性化支援チームは、ブレインストーミングによる職員意識の検証を行い、組織活性化に向けた職員のスキルアップと組織体制・職務分掌の明確化といった 2 つの課題が浮かびあがり、課題解決に向けた具体的策の検討がなされています。

企業会計導入チームは、これまでの会計帳簿の現状把握から損益状況や財務内容が月次で把握できる会計導入が検討されています。

【下期展望】

企業会計を導入・活用するために、準備を進めていきます。また、組織構成図、職務

分掌の策定と OJT（または OFFJT）プログラムを策定していきます。

商品の入れ替えも行っていきます。

◆やしろ鴨川の郷経営改善

【狙い】

商業の衰退に歯止めをかける（基本方針）ための一つの施策として、観光に関わる事業を商業分野としての観光業として位置づけ、観光施設の魅力度アップを進めています。今年度は、やしろ鴨川の郷の経営状況の悪化を改善すべく取り組みます。

【経緯】

過去 3 年間の収支状況把握を行い、その結果、収支バランスとして、年間 2,100 万円から 3,200 万円の赤字収支であり、経営状況の改善が緊急の課題であることを再確認しました。

【上期成果】

上期は、経営改善に向けての方策として、従来から実践していた「施設と直接向き合う」方法から、周囲の指定管理施設の経営知識をアドバイザー的に取り入れる方法とし、6 月 16 日に第 1 回目の指定管理施設経営者連絡会（参加施設：株夢街人とうじょう、兵庫県釣針協同組合、ふるさと振興会、鴨川の郷協会）を開催し、やしろ鴨川の郷の経営課題を共有しました。経営課題として、ジョイントベンチャー的経営方法の検討と弾力的な価格設定による客単価アップの検討を下期の取り組みとしました。

【下期展望】

下期は、空席であったレストラン部門の経営者が決定して再開すること（10 月 1 日）を機に、それぞれの部門の経営に厳しさを持たせるために、ジョイントベンチャー方式（複数企業による経営手段）の導入を検討することと、それを受けて、現行の指定管理制度のグループ申請の採用等を具体的に検討します。また、多様な宿泊プランの創出による施設の稼働率向上に注力するとともに、客単価向上策として、宿泊料金をより弾力的に運用が可能となるような方策を検討します。

さらに、各部門の経営（本館めぐりびあ、コテージ、レストラン、スポーツ施設、キャンプ場）シミュレーションを実施した上で、中期的（5 年間程度）な方針を決定します。

◆観光協会の自立支援

【狙い】

商業の衰退に歯止めをかける（基本方針）ための一つの施策として、観光に関わる事業を商業分野としての観光業として位置づけ、交流人口増加策を推進しています。そのためには、事業の核となる観光協会の役割が重要となります。

【経緯】

加東市観光協会の役割を明確にするため、任意団体から経営責任が明確となる法人格の取得により一般社団法人加東市観光協会を発足させ、自立的な経営が図れることを目指しています。

【上期成果】

4月1日付で一般社団法人加東市観光協会を発足させ、河高のにぎわいプラザ内に事務所を創設しました。上半期の自立支援への取り組みとしては、委員会（企画、総務）の自主運営と会員増を中心とした活動収入源の確保が主な内容になっていましたが、直面する事業展開への対応に追われることが多く、じっくりと審議する機会が設けられていません。そのような状況であっても、上半期事業企画を実践する中で、各委員の事業への参画役割分担が明確になり、徐々にではありますが、活動実践に結びついている例も生まれてきているので、今後も我慢強く継続させていきます。

【下期展望】

財源確保については依然として厳しい状態が続いています。今後において市費の投入や民間活力を用いるなどの支援策を検討するにしても、観光協会が主催する各事業の収支バランスを的確に掴むことが必須であり、事業実践による収支差益をどう生み出すかを考えるためにも、事業面においては、集客企画の徹底した見直し（例：どれだけの経費をもって、誰を対象に、どの範囲にPRし、来場者にどれだけの消費が見込めるかを考え、また、商品開発については市場ニーズの把握から、それを受けての企画検討、商品製作、販売ルート開拓などを同時に考える意識づくりと実践）が強く求められ、また、その体質づくりが急がれます。

体質強化のために、総務委員会に新たに経理精通者を加えるなどの見直し策を具体的に考えるなど、事業内容の検討と、それに伴う財源確保が同時に考えられる仕組みづくり（体制を整備）について年度末を目途に、本年度主要事業の目処が立つ10月下旬より検討を開始します。併せて、観光協会の自立的支援が「加東市地域経済活性化実施計画」の重要項目に位置づけられていることの再認識も重要となります。

◆インターンシップ制度の継続（2年目）

【狙い】

人口4万人を維持する（基本方針）ための一つの施策として、地域活性化を具現化する目的で、平成22年12月に兵庫県立大学が中心となって進めている「産学公人材イノベーション推進協議会」へ加入し、平成25年度より事業創造型インターンシップ制度を活用しています。

【経緯】

平成25年度は受け入れ企業7社で参加学生が34名でした。継続事業の2年目として、本年度は受け入れ企業7社で参加学生35名でした。

- ・本インターンシップ制度は、一般的な就業体験型インターンシップ、キャリア支援型インターンシップとは違い、事業創造型インターンシップです。受け入れ企業の経営にかかる課題等について、学生がその解決案を考え事業提案することを主眼としています。
- ・兵庫県立大学経営学部の学生が就業体験及びアンケート調査、SWOT分析等の経営状態を調査し、受け入れ企業の経営課題を新たな視点から事業提案をし、受け入れ企業の事業の参考にすることを目的に実施しています。

【上期成果】

・9月8日から12日の5日間、市内の7企業がインターンシップ制度を活用し、35人の学生の受け入れを行いました。受け入れの理由は下記のものがあり、インターンシップの最終日には中間報告会を開催しました。

・造園業の企業は、経営革新計画の取得により、計画において新たな顧客へのアプローチを模索していました。販路開拓の機会として、学生の視点による分析を参考にしたいと、インターンシップの制度を活用されました。

・介護サービス業の企業は、新卒を含めた若者の介護サービス業への就労の低迷を懸念しており、若者の確保、就労を進めるため、インターンシップ制度を活用されました。

・小売業の企業は昨年度の学生からの企業内部の提案を評価し、本年度は企業周辺の景観等を見直しなど、新たな提案に期待して受け入れされました。

【下期展望】

最終報告会を開催し、学生からの提案を受けます。

◆人口4万人維持策の検討

【狙い】

人口4万人を維持する（基本方針）ことは、地域及び経済活性化の基本要件です。そのためには、流入人口獲得と流出人口抑制を図らねばなりません。ここでは、自然災害の少なさ・『加東暮らしの良さ』のPRの一環として、ひょうご東条ニュータウンインターパーク（以降、インターパークと略す）全体を対象として、魅力あるまちづくりを検討し、加東市の人口減少に歯止めをかけなければなりません。

【経緯】

インターパーク居住者およびインターパークで働く方々の満足度を向上するため、子育て支援施設（託児所機能あり）の創設を検討してきました。満足度を向上させることは、就労支援や新規企業誘致に有利な要素に結びつき、工業のさらなる発展を支援（基本方針）していきます。

【上期成果】

建設予定地として、道の駅とうじょう第2駐車場を取得すべく、交渉に入るとともに、基本計画策定発注に必要となる仕様書の作成に着手しました。

【下期展望】

下期は、土地の取得を進めるとともに発注仕様書の作成を進めます。基本計画策定から建設着工は平成27年度以降（第3ステップ）の事業となります。

6. 第3ステップ（平成27～29年度）への提言 資料4

第3ステップの実施内容について、第2ステップからの継続内容（予測）を含めて現時点の案を資料4にまとめました。

第3ステップの実施・実践における重要課題は、次の3点に絞ることができると考えます。

- ①工業団地の推進：インターパークの完売策と新規工業団地の必要性検討
- ②商業ゾーンの開発：新・道の駅を含むまちづくり（商業ゾーン）構想の実現
- ③人口4万人維持策：インターパークのまちづくり構想の実現

各実施内容は、大規模な事業になることが予想され、検討・実施に当たっては、市役所関係部門のノウハウを横断的に引き出すことができ、かつ、対外的交渉に責任と権限を有するプロジェクト体制による推進が必須と考えます。

基本方針	基本施策	シート 番号	重点施策	実施内容		第2 ステップ	NO.	分類
工業の更なる発展 を支援する	企業立地の支援	01	新規立地支援	現有工業団地への新規立地支援	本社機能を有する地元・近隣企業の移転推進	◎	1	C
				立地するメリットの付加検討		→◎	2	A2
		02	地域内企業の育成	福利厚生支援の推進		◎	5	C
				創業、経営革新、第二創業、事業承継の促進		→◎	6	A1
			交流の「場」提供		◎	7	A1	
			工場見学を積極的に受け入れる体制づくり：産業ツーリズムの窓口を作る		◎	11	A1	
	産業クラスターの構築	04	産業クラスター施策の企画立案	情報発信支援の推進		◎	12	A2
企業間交流と連携支援	05	工業団地内(間)情報交換の支援	〈小規模〉産業クラスター計画の作成	＜第3ステージ＞ネットワーク形成	◎	15	C	
			ネットワーク作り		◎	19	A1	
			企業への地域情報発信		◎	21	A1	
	06	市内企業への情報発信と情報交換	新たな経営者組織の設立		◎	23	B2	
商業の衰退に歯止め をかける	市内購買力の向上支援	07	市内循環型消費システム施策の 企画立案	商品券(プレミアム商品券を含む)発行の検討		→◎	26	A1
				大規模商業施設の周辺開発を含めた都市計画策定		◎	29	D: 実行
				国道175、372号線の交差点活用検討		◎	30	D
		08	大規模商業施設の販売力向上支援	商店街の各個店の魅力度アップ策の推進		→◎	32	A1
				山田錦のPR強化	加東市内外への定期的な情報発信策の検討	◎	35	A1
				地域ブランド商品のPR強化 と開発支援	加東市ブランド商品の認定の推進	◎	36	B2
		11	地域ブランド商品の開発	商工会グルメプロジェクトの成果活用：平成23～25年度事業		→◎	37	A1
				「加東伝の助」商品の強化	商品開発支援	◎	40	A1
				観光業の強化	13	日帰りリピート客向けツアーの強化	ゴルフ向けツアー開発の検討	
	女性向けツアーの開発の検討		◎				45	A1
	日帰り温泉施設の活用推進		→◎				47	A1
		14	交流人口増加施策の構築	食をコンセプトとした地域活性化		→◎	50	A1
				地域の文化を活用した体験型観光の開発		◎	51	A2
高速道路を軸とした広域連携					◎	52	B1	
			観光施設の魅力度アップ策の検討		→◎	54	A1	
			観光協会の強化策の検討		→◎	55	A1	
人口4万人を維持する	地元雇用の確保	15	求職者への情報提供支援	就労支援室の情報発信力の強化		→◎	56	A1
		16	インターンシップ制度の構築	インターンシップ制度の構築		◎	60	A1
	流入人口獲得と 流出人口抑制	17	自然災害の少なさ・ 「加東暮らし」の良さPR	きっかけづくり：短期滞在型交流事業の検討		◎	61	B2
				滞在型から定住化へ		◎	62	B2
				定住化施策の展開		◎	63	B2
基本方針を実現する	民間を主体とする活性化への 支援	21	中核リーダーの育成支援	青年部の組織強化と情報発信力強化		→◎	68	A1
				個別企業支援：対処療法から体質改善へ(金融、税務支援から経営革新・第二創業へ)の推進		→◎	71	A1
				地域産業再編支援：従来から地域に存在する事業の集積による市場競争力の強化)の推進		◎	72	D
	行政・商工会・各種団体・事 業者の連携強化	22	商工会の活用 (具体的課題の検討・解決)	ネットワークの高度化・有機化の推進		◎	73	B2
				行政関係団体の活用 (具体的課題の検討・解決)		◎	77	B2
				地域資源の再評価とPR強化	地域資源の認定・PR		◎	78
	「加東市」ブランドの強化	25	「加東市」表示の施設増加	費用対効果の検討		◎	79	C
新規の施設などは「加東市」「加東」「かとう」を冠とすることを原則とする					◎			

第1ステップ：平成24年度
第2ステップ：平成25、26年度
第3ステップ：平成27年度以降

- ◆ 第2ステップの位置づけ
- ・第1ステップ継続項目の実践
 - ・第2ステップ対象項目の計画実践

- ◆ 層別
- ・横の層別要素：事業規模：小規模・大規模
 - ・縦の層別要素：対象期間：短期・長期

	小規模	大規模
	A1・A2	B1・B2
短期：主に第2ステップ*	A1・B1：平成25年度実践項目	
	A2・B2：平成26年度実践項目	
	C	D
長期：主に第3ステップ*	C、D：基本計画の策定と実施・実践の判断を第2ステップで行う	

第2 ステップ	実施計画内容	NO.	経済 指標	雇用 指標	個別 指標	目標値
◎	◆工業団地と市内企業との情報交換促進	1 5 12 15 19 21	○		○	・オンラインかわら版参画企業の増加 14社/48社⇒参画企業50%以上 ・防災グッズ販売支援 防災グッズのPR⇒工業団地37社に紹介済み (凸版印刷)
→◎	◆上水道費用の助成実施	2	○		○	・助成金額見込み(6月末) 14社、22,093,050円 ・対象企業ヒアリング:経費削減効果の実態調査
→◎	◆経営革新プログラムの実施 ※重点フォロー項目(商工会)	6			○	・経営革新プログラムの実施し、10件の申請支援を行う
◎	◆創業支援(第二創業)の実施 ※重点フォロー項目(商工会)				○	・創業支援策(補助金等)の施策普及を促す
◎	◆関東加東応援団の活性化	7 72	○		○	・市外都市部との人脈強化⇒企業マッティングへ結びつける 第一歩
◎	◆行政・商工会・事業者の連携強化	73				
◎	◆「山田錦」産地のPR強化	11 35	○		○	・酒米生産農家組織主体の推進体制の確立(加東山田錦 振興会主体の『山田錦』乾杯まつりの会開催:9月14日開 催) ・でんでん虫の家が製作した日本酒「なんでんの」販売促 進(全国農業担い手サミット等最低販売目標2千本)
◎	◆異業種交流会事業の推進	23			○	・交流、研修を年4回実施するよう支援する
→◎	◆地域循環型経済＝商品券発行の検討	26	----	----	----	・平成25年度にて進捗フォローは終了
◎	◆新道の駅構想の具現化 ※重点フォロー項目(市)	29 30 52			○	・基本構想の確立 コンセプト、ターゲットユーザーの明確化 (場所・規模・経営母体・経営戦略)
→◎	◆商業ゾーンの充実 ◆学生チャレンジショップの開店 ※重点フォロー項目(商工会)	32	○		○	・Bioカードのポイント交換を促進するためのイベントを定 期的に実施し、昨年実績を超えるよう支援する ・杜高校生の考案した地元食材を使った商品の販路開拓 ・やしろショッピングパークBio内の空き店舗を活用し、集客 を高める 開店月1回程度(秋以降)
◎	◆地域資源の活用とブランドの確立	36 45 51 77	○		○	・第2回ディスカバー加東バスツアーの実施 20名×3回＝60名の市民を対象 ・加東四国八十八箇所霊場の活用 市民への周知 ・関連グッズ開発と販売 ・山国郷土料理「肉めし」の前面販売 山田錦乾杯まつり(9月開催)にて実演販売400食(料 理に纏わる物語が語れるのが強み)
→◎	◆ひょうご「まちおこし」支援事業の活用	37 40 50	----	----	----	・平成25年度にて事業は終了
◎	◆ゴルフ振興事業の検討 ◆ゴルフ場の経営支援	43	○			・平成25年度にて進捗フォローは終了 ・企業マッティング(新たに酒造会社1社とゴルフ場)本年冬 期のコンペ開催を目指す ・プロゴルフトーナメント集客力アップ支援(ギャラリー駐車 場確保と広告ポスター等掲載活動 ・観光協会によるギャラリープラザ出店 9/11～9/14:コニカミノルタ 10/30～11/2:マイナビABC
◎	◆滝野温泉ぽかぽ活性化プロジェクト ～経営計画実行～ ※重点フォロー項目(商工会)	47	○		○	・入浴客数の昨年実績を超えるよう支援する ・入浴売上の昨年実績を超えるよう支援する ・組織全体の活性化 ・企業会計の導入 ・経営相談体制の確立(道の駅とうじょう、アクア東条、滝 野温泉ぽかぽ、やしろ鴨川の郷) ※相談内容の対象は、やしろ鴨川の郷とする ・委託事業収支が改善するよう支援する(赤字の縮減)
→◎	◆やしろ鴨川の郷経営改善 ※重点フォロー項目(市)	54	○		○	
→◎	◆観光協会の自立支援 ※重点フォロー項目(市)	55		○	○	・事業計画の確定(中期5ヵ年計画) ・事務局体制の再構築支援:雇用2名
→◎	◆就労支援室の強化 ※重点フォロー項目(市・商工会)	56		○	○	・相談件数の増加 件数目標:前年対比増(500件) ・タワーズ再就労支援(市直接相談による再就労内定 者7名)継続を工業団地企業を主に実践する 現段階での内定目標総計12名。
◎	◆景況調査の実施 ※重点フォロー項目(市・商工会)				○	・加東市経済動向の分析(6,7月調査、9月分析) 工業団地企業、商工会会員企業、全体
◎	◆インターンシップ制度の継続(2年目) ※重点フォロー項目(商工会)	60			○	・専門的な知識を有した学生による、受入先企業の経営分 析、マーケティング等を行う事で企業の意識改革を図る 受入企業7社
◎	◆人口4万人維持策の検討 ※重点フォロー項目(市)	61 62 63 64		○	○	・南山企業誘致及び住宅用地販売促進、商業施設誘致に 不可欠な「南山に人を呼び込める」手段として企業への女 性就労支援と児童福祉充実施策である児童館建設に早 期着手する(工期短縮のため民間活力方式を採用する) ・来年秋の完成を目指す ・利用対象者は、児童館親子約60組と託児所利用3～5 名とする
→◎	◆中核リーダーの育成支援	68			○	・青年部の知名度向上を目指す ・部員事業所の経営円滑化等に係る部員の資質向上を図
→◎	◆商工会の活用 (地域産業の活性化に取組む商工会への補助)	71	----	----	----	・平成25年度にて進捗フォローは終了
◎	◆「加東市」の露出度向上	78 79	----	----	----	・第3ステップ事業とする

NO.	第2 ステップ	分類	実施計画・実践内容	平成26年度上期	平成26年度下期
1	◎	C	◆工業団地と市内企業との情報交換促進	・工業団地景況調査 実施⇒26年度上期(商工会会員へは6月、7月に実施) ⇒8月も実施(回収数を前年並みにするため) 調査年度⇒25年度下期状況 ・オンラインかわら版への参画依頼を再度徹底する⇒参画企業50%以上(目標) ・企業PRの実践 凸版印刷防災グッズの紹介(工業団地企業への紹介済み)	・市内工業団地と中小企業の景況調査結果と北播磨地域の景況調査に基づいて「加東市の景況」をまとめる ・景況調査結果をオンラインかわら版にアップする。 ・参加するメリットを明確にする＝オンラインかわら版のリニューアル 商工会会員企業とのマッチング⇒実績の蓄積 ・企業PRの実践 企業向け情報誌(BLP等)活用・個別相談対応 ・企業の福利厚生への支援 ・企業の共通課題や関心事に関する情報を提供する 地域貢献活動の状況 etc
5	◎	C			
12	◎	A2			
15	◎	C			
19	◎	A1			
21	◎	A1			
2	→◎	A2	◆上水道費用の助成実施	・対象企業への周知 対象企業調査(14社)、助成総額：22,093,050円 説明日程調整 ・説明と申請手続き 個別訪問での説明 ・随時申請受付、交付(10社済み)	・随時申請受付、交付(1社済・残り3社) ・状況調査 ・効果の把握 助成対象企業のヒアリング：費用削減効果の実態把握 支援施策の情報交換
6	→◎	A1	◆経営革新プログラムの実施 ※重点フォロー項目(商工会)	・「経営革新」承認支援プログラムの実施(参加事業所11件) コンパリゾンの実施(6月18日、19日、20日) キックオフセミナーの開催(6月24日) 経営革新概要計画書の作成(7月1日) 個別面談実施(7月10日、11日) 経営革新計画発表会(7月15日) ・「経営革新」取得事業者の計画推進の支援 (国・県の補助金の申請指導を含む) 申請事業所7件(内、承認事業所7件)	・「経営革新」取得事業者の計画推進の支援 (国・県の補助金の申請指導を含む) 申請事業所2件(内、現在申請中2件)⇒11月に審査 申請書作成中：5件
			◆創業支援(第二創業)の実施 ※重点フォロー項目(商工会)	・創業支援(第二創業)の補助金申請の対応 創業補助金申請対応4件(内、採択1件) 女性起業家補助金申請対応3件(内、採択1件)	
7	◎	A1	◆関東加東応援団の活性化	・関東加東応援団総会(5月31日) ・観光グッズPR	・企業人交流：市内の企業が上京時に不定期に交流 ・12月忠臣蔵展でのふるさと加東のPR(団員合同参加) ・企業マッチングの基礎となる交流の確立 ・ふるさと農産物販売⇒成果実績の検証
72	◎	B2			
73	◎	B2	◆行政・商工会・事業者の連携強化	・ふるさと農産物販売(総会でアンケート、2ヶ月ごとチラシ配布)	
11	◎	A1	◆「山田錦」産地のPR強化	・「山田錦」乾杯まつりでのツアー実施(産業ツーリズム：9月14日) ツアー抽選に漏れた応募者のリカバリー策検討(各種招待券など) 来場者増加策の検討(新三田駅からのシャトルバス運行等) 観光ボランティアとの連携による加東市PR(清水寺) ・見学や体験の場として、「でんでん虫の家の山田錦づくり」を実施する 田植え体験(6月10日) ・体験の場で収穫した山田錦での酒造り 約2,000本：酒の名前決定＝「なんでんの」 販売ルート検討＝JAみのりでの販売：昨年度分 ・地元企業の企画参入(でんでん虫の家制作日本酒ラベル・パンフ等)凸版印刷	・見学や体験の場として、「でんでん虫の家の山田錦づくり」を実施する 稲刈り作業(10月上旬) ・酒の販売 ・次年度の実施内容検討 継続するための戦略づくり
35	◎	A1			
23	◎	B2	◆異業種交流会事業の推進	・加東市異業種交流会設立総会の開催(6月7日) ・役員会の開催(8月1日) ・会員交流会の開催(8月28日)	・三役会の開催(10月24日) ・役員会の開催 ・広域交流事業の開催(11月14日～15日) ・平成26年度末に実績最終報告を実施 ・多可町の得とくパッケージ実施情報収集(商工会独自予算)
26	→◎	A1	◆地域循環型経済＝商品券発行の検討	・平成25年度にて進捗フォローは終了	
29	◎	B2 D	◆新道の駅構想の具現化 ※重点フォロー項目(市)	・国道175・372号交差部周辺活性化基本計画 ⇒12月末策定(期間変更) ・主として、経営面に関するソフトウェア面の実施計画作成 ・アンケート実施(農家、市民、WEB)⇒集計 ・商業者、特産加エグループ等へのヒアリング調査準備	・商業者、特産加エグループ等へのヒアリング調査実施 ・ハードウェア計画 道の駅基本施設の決定(駐車場含む) 地域振興施設の決定 ・ソフトウェア計画 経営母体 基本方針 ・基本計画の策定(12月)
30	◎	D			
52	◎	B1			
32	→◎	A1	◆商業ゾーンの充実	・Bio専門店会各個店の魅力度アップ策検討 Bio専門店会理事会(4月4日・5月7日・6月6日・7月4日・8月5日・9月5日)	・Bio専門店会各個店の魅力度アップ策検討 Bio専門店会理事会(10月7日・11月4日) ・ポイント交換を促進するためのイベント実施(クリスマスイベント実施予定) ・専門店会向けの研修会
		B2	◆学生チャレンジショップの開店 ※重点フォロー項目(商工会)	・店舗レイアウト、商品構成の検討 やしろ商業開発、社高校ヒアリング(7月2日) Bio空き店舗視察(7月4日)⇒2F飲食店街への出店決定 社高校打合せ(9月5日)	・店舗レイアウト、商品構成の検討 社高校打合せ(10月7日) やしろ商業開発打合せ(10月9日) 中小企業診断士打合せ(10月17日) 社高校、中小企業診断士打合せ(10月23日) ・メニューの検討(焼菓子、ジャム 等) ・接客マナー、原価計算等の知識を身にする ・チャレンジショップ及び商品のPR ・チャレンジショップオープン(11月プレオープン：1階・12月オープン：2階)
36	◎	B2	◆地域資源の活用とブランドの確立	【歴史・文化資源】 ・ディスカバー加東(第2回)を企画：加東市東部(バスルート検討：6月13日) ・加東四国八十八箇所霊場調査 ・加東四国八十八箇所霊場ツアールートの設定 徒歩巡礼ルート& バス巡礼ルート 朱印帳&朱印の検討 【民俗・食文化】	・ディスカバー加東(第2回)の準備＝加東四国八十八箇所霊場巡拝 加東郡(加東市・小野市)の堂宇所在地の確認 5つのコースの設定 加東市内巡拝コース(4)＋小野市内巡拝コース(1) 旧東条地区の18堂宇を巡るコース確定 納経帳の検討⇒来年度予算にて制作 巡拝マップ(場所・本尊・御詠歌)朱印の検討(全堂宇共通)⇒今年度予算にて制作
45	◎	A1			
51	◎	A2			

77	◎	B2		・山国郷土料理「肉めし」のブランド化検討 「山田錦」乾杯まつりにて実演販売⇒マーケティング	・ディスカバー加東(第3回以降)の検討 加東市東部を周るコースの検討(東条湖遊覧＝東条湖八景の復活をメインとする)
37	→◎	A1			
40	◎	A1	◆ひょうご「まちおこし」支援事業の活用	・平成25年度にて事業は終了	・平成26年度末に実績最終報告を実施
50	→◎	A1			
43	◎	A1	◆ゴルフ振興事業の検討	・平成25年度にて進捗フォローは終了	・平成26年度末に実績最終報告を実施
			◆ゴルフ場の経営支援	・集客力向上策の検討と実践 ターゲットユーザー別集客策の検討⇒集客策の実践 ステップアップツアーの支援(7月2,3日:ABCゴルフ倶楽部) プロゴルフトーナメント支援(コニカミノルタ)	・集客力向上策の検討と実践 プロゴルフトーナメント支援(マイナビABC:10月30日～11月2日:物販・親子ツアー) ターゲットユーザー別集客策の検討 集客策の実践 ・企業の冠イベントの開催支援(灘五郷等) ・企業会計の導入:企業会計導入支援チーム会議(10月9日・11月17日) 会計ソフトを利用した新システムの検討→設計(進行中) ・商品計画の改善:商品計画改善支援チーム会議(10月21日・11月12日) 商品選別の実施→販売レイアウトの変更の実施 ・組織活性化:組織活性化支援チーム会議(10月15日・11月13日) 各部門の業務内容とレベル分けの明確化→業務分掌と来季以降の人材育成方法の検討 ・副委員長チームリーダー連絡会議(10月23日) ・報告書作成(1月予定)
47	◎	A1	◆滝野温泉ぽかぽ活性化プロジェクト～経営計画実行～ ※重点フォロー項目(商工会)	・企業会計の導入 企業会計導入支援チーム会議(7月28日・9月1日・9月10日) ・商品計画の改善 商品計画改善支援チーム会議(7月16日・8月26日・9月16日) ・組織活性化 組織活性化支援チーム会議(7月9日・8月5日・9月18日) ・委員会の開催(6月24日)	・企業会計の導入:企業会計導入支援チーム会議(10月9日・11月17日) 会計ソフトを利用した新システムの検討→設計(進行中) ・商品計画の改善:商品計画改善支援チーム会議(10月21日・11月12日) 商品選別の実施→販売レイアウトの変更の実施 ・組織活性化:組織活性化支援チーム会議(10月15日・11月13日) 各部門の業務内容とレベル分けの明確化→業務分掌と来季以降の人材育成方法の検討 ・副委員長チームリーダー連絡会議(10月23日) ・報告書作成(1月予定)
54	→◎	A1	◆やしろ鴨川の郷経営改善 ※重点フォロー項目(市)	・経営状況を把握する⇒課題の共通認識⇒解決策 ・指定管理施設経営者連絡会の開催(第1回) 運営ノウハウの紹介と論議(6月16日) ・指定管理者応募条件の検討⇒グループ申請の認可 ・レストランの再開検討(受託企業の選定)⇒10月1日の再開決定	・レストランの再開(10月1日) ・委託事業の収支改善に注力する 商品(宿泊プラン)計画の創出⇒レストランメニューとの連携 ・指定管理施設経営者連絡会の開催(第2回) 運営ノウハウの紹介と論議 やしろ鴨川の郷へのアドバイス・提言 ・指定管理者応募条件の検討⇒グループ申請の認可……上期報告書にて提案済み ・料金体系の変更(条例の一部改定含む)検討…………上期報告書にて提案済み
55	→◎	A1	◆観光協会の自立支援 ※重点フォロー項目(市)	・事業実践を通じた委員会組織強化 理事会開催2回:5月、6月 企画・総務委員会7回:4月、5月、6月、8月、9月 ・会員増活動実践 目標会員数117名中、72名の加入実績(加入率61.5%) ・商品開発支援(伝の助ゴルフヘッドカバーの商品化) 基幹産業ゴルフ振興(市内ゴルフ場を中心に販売する)	・中期事業計画策定支援 人材育成(委員及び会員主体の活動実績:自覚を促す力 収支計画(事業別収支バランスシートの作成義務付け等) (総務委員会に経理精通者を加える) ・組織活性化(委員会組織の強化、会員の増強)支援 ・商品開発の企画支援＝グルメ本作成 ニヶ年計画に変更し、企画内容について、費用対効果を県立大学と連携する(10月7日) 今年度は企画案を作成し、商工会との連携による県連補助金事業に位置づける 平成27年度4.5.6月で県連への提案書の作成、7.8月製本、秋の配布を目指す
56	→◎	A1	◆就労支援室の強化 ※重点フォロー項目(市・商工会)	・就労支援室の情報発信力の強化 相談件数(9月末日現在 234件) ・関係機関との情報共有化の強化 社会福祉部連携相談者数(9月末日現在 31件) ・市内事業所への巡回の強化 市内事業所巡回(9月末日現在 662件) ・外部発信の強化 就労支援室の案内チラシを加東市広報に差込配布済(8月号) 文字放送を利用し就労支援室のPRを実施(8月11日～ 2週間) 就労支援室のポスター及び行き方を加東市くらしの相談コーナーに掲示(7月22日～) 各関係施設のポスター及びチラシの設置(公民館3ヶ所、児童館3ヶ所、図書館4ヶ所) インターネット回線を利用した、ハローワーク求人情報の提供(9月1日開始)	・就労支援室の情報発信力の強化 相談件数(10月23日現在 34件) ・関係機関との情報共有化の強化 社会福祉部連携相談者数(10月23日現在 3件) ・市内事業所への巡回の強化 市内事業所巡回(10月23日現在 80件) ・外部発信の強化 就労支援室の案内チラシを加東市広報に差込検討 ・障がい者雇用の検討(北播磨特別支援学校との関係模索)
				・タワージャズジャパン社員の就労支援 工業団地での再就職検討⇒企業訪問 採用枠の確保検討(5社、10名程度)	・タワージャズジャパン社員の就労支援 工業団地での再就職検討⇒企業訪問 ・市内企業の再雇用枠確保(商工会連携) 再就職希望者のセールスポイントを明確にする(一般的な職務経歴書ではダメ) ・障がい者再雇用枠の確保支援:現在対象者は1名
			◆景況調査の実施 ※重点フォロー項目(市・商工会)	・景況調査を実施する(6月、7月) 工業団地:地域振興課 商工会員:商工会	・市内工業団地と中小企業の景況調査結果と北播磨地域の景況調査に基づいて「加東市の景況」をまとめる ・情報提供＝加東市景況状況の定点観測結果のフィードバック
60	◎	A1	◆インターンシップ制度の継続(2年目) ※重点フォロー項目(商工会)	・前年度フォロー(5/1～5/12前年度受入企業ヒアリング) ・受入企業選定(7社) ・インターンシップ事業の受け入れ企業への説明会(8月28日) ・参加学生選定(35名) ・就業体験・経営現状調査(インターンシップ)実施(9月8日～9月12日) ・開校式(9月8日)・中間報告会(9月12日)	・報告会の開催(1月末) ・報告書の作成(3月) 本年度で終了
61	◎	B2	◆人口4万人維持策の検討 ※重点フォロー項目(市)	・人口4万人の維持施策、進め方を検討する	・南山まちづくり計画＝コミュニティの核づくり 子育て支援施設等の多目的施設創設検討
62	◎	B2		・ターゲットを絞った移住支援策を検討する⇒農業	
63	◎	B2		・南山まちづくり構想	
64	◎	B1		新規流入人口増加策の検討 住居者の満足度向上策の検討:子育て支援施設(託児機能あり)	
68	→◎	A1	◆中核リーダーの育成支援	・花火大会の協賛事業の実施(8月6日):無料給水所 ・青年部事業所パンフレットの作成 ・プライダル事業の実施(第1回7月21日・第2回8月6日・第1回セミナー9月23日)	・秋のフェスティバルの協賛事業の実施(11月1日・2日):木工コンテスト ・青年部事業所パンフレット設置場所の検討 ・プライダル事業の実施(第3回11月9日・第4回12月14日)
71	→◎	A1	◆商工会の活用 (地域産業の活性化に取組む商工会への補助)	・平成25年度にて進捗フォローは終了	・平成26年度末に実績最終報告を実施
78	◎	C	◆「加東市」の露出度向上	第3ステップ項目へ変更	第3ステップ項目へ変更
79	◎	C			

第3ステップ実施内容(案)

2014/9/30

2014/3/26

基本方針	基本施策	シート 番号	重点施策	実施内容		第3 ステップ	No.
工業の更なる発展 を支援する	企業立地の支援	01	新規立地支援	新たな工業団地の開発検討		◎	3
	産業クラスターの構築	04	産業クラスター施策の企画立案	(小規模)産業クラスター計画の作成	<第4ステージ>産業の進化・発展	◎	16
	企業間交流と連携支援	05	工業団地内(間)情報交換の支援	自主運営への移行		◎	20
商業の衰退に歯止め をかける	市内購買力の向上支援	07	市内循環型消費システム施策の 企画立案	企業間情報交換による新規事業、商品開発支援		◎	28
		08	大規模商業施設の販売力向上支援	大規模商業施設の周辺開発を含めた都市計画策定		⇒◎	29
				国道175、372号線の交差点活用検討		⇒◎	30
	地域ブランド商品のPR強化と 開発支援	11	地域ブランド商品の開発	JAPANブランド戦略の検討		◎	38
	観光業の強化	14	交流人口増加施策の構築	高速道路を軸とした広域連携		⇒◎	52
人口4万人を維持する	流入人口獲得と 流出人口抑制	17	自然災害の少なさ・ 「加東暮らし」の良さPR	きっかけづくり:短期滞在型交流事業の検討		⇒◎	61
				滞在型から定住化へ		⇒◎	62
				定住化施策の展開		⇒◎	63
		18	雇用と魅力あるまちづくりビジョンの策定	雇用と魅力あるまちづくりビジョン		◎	65
基本方針を実現する	行政・商工会・各種団体・ 事業者の連携強化	23	商工会の活用 (具体的課題の検討・解決)	インキュベート・シンクタンク機能の発揮		◎	74
	「加東市」ブランドの強化	24	地域資源の再評価とPR強化	地域資源の認定・PR		⇒◎	77
		25	「加東市」表示の施設増加	費用対効果の検討		⇒◎	78
				新規の施設などは「加東市」「加東」「かとう」を冠とすることを原則とする		⇒◎	79

朱記項目:重点フォロー項目

第1ステップ:平成24年度
第2ステップ:平成25、26年度
第3ステップ:平成27年度以降

⇒◎ : 第2ステップからの継続(予想)